

バリデーションとは

アルツハイマー型認知症および類似の認知症のお年寄りとのコミュニケーションを行うための方法の一つです。これは、ナオミ・フェイル氏(現、バリデーショントレーニング協会専務理事)が老人ホームで働くなかで、認知症のお年寄りに対するこれまでのセラピーに満足できなくなり、高齢化の過程の一部としてあらわれる見当識障害にお年寄りがうまく対処できるように支援する方法としてバリデーションを開発しました。



ナオミ・フェイル
Naomi FEIL

バリデーションは、認知症のお年寄りに対して、尊敬と共感をもって関わることを基本とし、お年寄りの尊厳を回復し、引きこもりに陥らないように援助するコミュニケーション法です。また、バリデーションは認知症のお年寄りだけでなく、介護の専門職や、お年寄りを介護する家族にとっても役に立ちます。そして、世界でも高く評価され、アメリカ合衆国、カナダ、ヨーロッパ、オーストラリアなどの10,000以上の施設が採用しています。

日本では2003年11月、アジアで初めて、バリデーショントレーニング協会(The Validation Training Institute, Inc. 本部:アメリカ合衆国オハイオ州、以下VTIとする)が正式に認可する、トレーニング課程【Level 1 バリデーション・ワーカーコース】が日本で開講され、2004年10月、約1年間の講習を経て、第1期バリデーション・ワーカーが誕生し、すでに活躍している方もいます。ワーカーの実践や、世界でのバリデーションの取り組みは、NHKの「生活ほっとモーニング」で、『認知症の“こころ”に触れるバリデーションの試み〜』(2005年7月11日放送)、『シリーズ認知症のこころにふれるバリデーション』(2007年1月23, 24日の2日間)として取り上げられ、バリデーションへの関心が高まっています。

2008年9月、いよいよ第5期ワーカーコースが開講します。バリデーションを深めるとともに、バリデーション・ワーカーとしての資格を得られる数少ない機会です。みなさまのご参加をお待ちいたしております。

ワーカーコースの概要

バリデーション・ワーカーコースは、下記のとおり1年間に6回(各2日間)のスクーリングとその間の実践実習からなっています。

全6回のスクーリングの受講、実践実習、課題の提出、筆記・実技試験により合否を判定し、合格者にはバリデーション・ワーカーの資格が与えられます。

	内 容 (予 定)
第1回	オリエンテーション／バリデーションで必要とされる基本的人間観
第2回	第1段階(認知の混乱)で使われるすべてのテクニックの実演と実践練習
第3回	第2段階(日時、季節の混乱)で使われるすべてのテクニックの実演と実践練習
第4回	第3段階(繰り返し動作)で使われるすべてのテクニックの実演と実践練習
第5回	第4段階(植物状態)で使われるすべてのテクニックの実演と実践練習 バリデーションと他の療法との違い
第6回	最終試験(筆記試験・個別実技試験)

	＜第1会場＞ 第1回～第6回： 大阪会場（会場調整中）	＜第2会場＞ 第1回～第6回： 東京会場 品川区立中小企業センター
第1回	2008年09月19日(金) ～ 20日(土)	2008年09月22日(月) ～ 23日(火)
第2回	2008年12月05日(金) ～ 06日(土)	2008年12月08日(月) ～ 09日(火)
第3回	2009年03月06日(金) ～ 07日(土)	2009年03月09日(月) ～ 10日(火)
第4回	2009年06月24日(水) ～ 25日(木)	2009年06月29日(月) ～ 30日(火)
第5回	2009年09月18日(金) ～ 19日(土)	2009年09月21日(月) ～ 22日(火)
第6回	2009年12月09日(水) ～ 10日(木)	2009年12月14日(月) ～ 15日(火)

参加者の声

本当の意味の「共感」とは何かを問う一年でした。相手の気持ちを受け入れるにはどうすればよいか？ニーズとは何か？・・・ロールプレイの時、その答えが見つかったような気がしました。

私の心にそっと触れられ、そしてわかってもらえたという喜びを感じた時、止めどなく涙が溢れました。共感されるということは、こんなにも癒され、幸せを与えてくれるものであるかを知りました。また、いかに私が今まで自分勝手であったかを知った瞬間でした。バリデーションを学び、この感動を一人でも多くの方に味わっていただきたいと思います。

(市医師会 職員)

バリデーションを学びかけた頃、ケアに従事するものにとって、お年寄りに共感するのは当たり前のことであり、「自分は共感している」と考えていました。

しかし、スクーリングが進むにつれ「共感」について改めて考え直したとき、「私はなんて人とかかわり方が浅かったんだろう」と心が痛くなりました。

バリデーションで、私自身の一番大切なこと「敬意を持つ」ことを学ぶことができました。

(特別養護老人ホーム 施設長)

ワーカーコースの感想を一文で表現すると「認知症のお年寄りとの関わりについて、未解決の問題をいくつも抱えて苦しんでいた私が、ひとつひとつ解放たれていく快感を十分に体感した」ということでしょう。

毎スクーリング後の実践は確かに苦闘しましたが、「共感」出来たと感じた瞬間の心の震えは何事にも代えがたく、認知症のお年寄りが一層愛しい存在になりました。

もう一つ得たものは、同期生とのつながりです。同じ目標を持つ受講生、苦しみも喜びも共感し合い、支え合う関係は、修了した今も更に強まっています。

(元大学 講師)

ユニットケアを始め、認知症のお年寄りより深い関係が要求されるようになり、コミュニケーションの難しさを感じていた時出会ったのが、ナオミ・フェイル氏のバリデーションセミナーでした。

今までの私のコミュニケーションがいかにか自己満足で相手の心に通じていないかと思い知らされました。それをさらに深めることができたのが、ビッキー・デクラーク・ルビン先生によるバリデーション・ワーカーコースでした。

ワーカーが自分の感情や思いを除いて共感することができれば、お年寄りはこれまでの人生で抱えていた問題を、コミュニケーションを通して解決でき、安心して生活ができます。そのことをビッキー先生の暖かい人柄に触れながら丁寧に教えていただき、仲間も増え、とても充実した1年間でした。

(特別養護老人ホーム 看護師長)

バリデーション「新しい価値観」との出会い

公認日本バリデーション協会 代表 篠崎 人理
(きのこ老人保健施設 施設長)

「バリデーション」は2001年9月に初めて日本語訳で紹介されて以来、大きな反響と共感を持って受け入れられてきました。特に認知症のお年寄りとかかわる家族や介護スタッフからは、より強い支持を受けています。訳者としてもこれは大変喜ばしいことですが、なぜこのような支持を受けることになったのでしょうか？

実は10年近く前に、バリデーションはすでに日本に紹介されていたのです。しかしその時はあまり注目されませんでした。これはどうも日本のケアの成熟度に関係がありそうです。その当時、ほとんどの施設で、認知症の「問題となるやっかいな行動や行為」ばかりに注目が集まっており、その行動をコントロールすることに多くの人々の目が向いていたのです。そんな時「認知症の人に問題行動などない」「それは認知症の人が何かの要求を伝えようとしている手段なのだ」などの主張は「非現実的」で、「理想論」だと退けられたのです。

それから10年、新しい世紀を迎え、日本人の考え方も大きく変化してきました。「経済成長」と「物の豊かさ」への追求から、「心の豊かさ」へのあこがれへと大きな価値観の変化が始まったのです。それでは、「心の豊かさ」を手に入れるにはどうしたらいいのでしょうか？前世紀後半にずっと続いていた「物の豊かさへの追求」の時代には、知識が必要でした。そのため、私たちはいろいろな形で知識教育を受けてきました。より多くの情報を得、学習することによってより多くの物質的豊かさを手に入れてきたのです。ところが「心の豊かさ」はどうもこの手法ではうまくいかないことがわかってきました。知識系教育は参考書や情報があれば一人でも出来るのですが、「心の豊かさ」を手に入れるには新しい「人間観」や「価値観」が必要で、これらを学ぶには「感動や喜び、悲しみ」といった「相手」や「体験」が必要です。これを私たちは「知識系教育」に対して「出会い系教育」（出会い系サイトではない。念のため）「体験系教育」と呼んでいます。新世紀とともに人々の心の大きな変化が起き、バリデーションは初めて受け入れられたのです。

認知症のお年寄りとかかわりの中で、「出会い系」「体験系」教育を経験し、認知症の人の人生経験を通じて、「心の豊かさ」を学ぶ方法論として、バリデーションは今再評価されているのではないのでしょうか。

みなさんも、「自分自身の心の豊かさ」を得る方法にチャレンジしてみませんか。

◇◇◇ 講師紹介 ◇◇◇

1987年より、バリデーション創始者である母、ナオミ・フェイル(Naomi Fail)のワークショップに関わり、1991年より、バリデーショントレーニング協会ヨーロッパ支部代表を務める。ヨーロッパ各地でバリデーショントレーニングを行い、新しい研修コースの開発も担っている。日本でも「ワーカーコース」「グループリーダーコース」「ティーチャーコース」で受講生に熱心に指導をし、バリデーションの普及に尽力している。



ビッキー・デクラーク・ルビン
Vicki de Klerk-Rubin

バリデーショントレーニング課程

バリデーションのトレーニング課程に、The Validation Training Institute Inc.(VTI)が正式に認可する以下の4つのレベルがあります。今回開講するのは、4つのレベルのうち、Level1のワーカーコースになります。

Level 1

バリデーション・ワーカー

個人に対するバリデーションの実践や、バリデーションに興味のある人へのサポートができる。

Level 2

バリデーション・グループリーダー

グループバリデーションの実践や、Level 1の人及びバリデーションに興味のある人へのサポートができる。また、小規模のプレゼンテーションを行うことができる。

Level 3

バリデーション・ティーチャー

VTIが正式に認可した団体(AVO: Authorized Validation Organizations)と共同で、Level 1及びLevel 2の人および家族に対し、バリデーションのプレゼンテーションや講義、授業を行うことができる。

Level 4

バリデーション・マスター

Level 3の人に対し、指導することができる。また、カリキュラムの見直し、本やトレーニングの資料についての推薦や修正をすることができる。

受講にあたっての注意事項

- * 「バリデーション・ワーカークース」の受講には、「バリデーションセミナー」の受講を済ませていることが前提となります。セミナーを受講されていない方がワーカークースを希望される場合は、事務局までご相談ください。
- * 講義には通訳がつきます。

参加費

395,000円（税込み）

参加費に含まれるもの……テキスト代、6回のスクーリング代、スクーリング時の通訳、課題の採点など
参加費に含まれないもの……会場までの交通費、宿泊費、食費、課題の翻訳費など

- ※ 参加費のお支払い方法は、「第5期バリデーション・ワーカークース受講案内・規約」及び同意書の送付時に併せてお知らせいたします。

定員

各会場 30人（先着順）

- ※ 定員を超えての受け付けはいたしません。

申し込みから参加までの流れ

1. 要綱添付の「バリデーション・ワーカークース受講申込書」に必要事項をご記入のうえ、FAXまたは郵送にてお申し込みください。受付は先着順とさせていただきます。
2. 受け付け後、随時「第5期バリデーション・ワーカークースの規約」、「同意書」ならびに「参加費振り込みのご案内」をお送りいたします。
3. 同意書に必要事項を記入し、お写真を添付のうえ、事務局までご返送ください。同時に、参加費をお振り込みください。
4. ご入金の確認ができた方から受講票をお送りいたします。参加当日は、この受講票を会場までお持ちください。



主催・お問い合わせ先

公認日本バリデーション協会 Authorized Validation Organization Japan

【事務局】 全国コミュニティライフサポートセンター（CLC） 担当：小野寺 湯橋
〒981-0954 宮城県仙台市青葉区川平 5-3-18-207（CLC東日本内）
TEL：022-719-9240 FAX：022-719-9251 URL：<http://www.clc-japan.com/validation/>
E-mail：validation@clc-japan.com